# 高度救命救急センター
# ER部門を強化　看護師14人を配属



急性の重症患者に対応する本院の高度救命救急センターのER部門の新体制が今年4月にスタートしました。独立した部署となり、経験豊富な看護師が新たに配置されました。災害や感染症拡大などはもちろん、院内での患者さんの急変への対応も含め、より質が高く安全な医療を提供できる体制が整いました。

**より質の高い高度医療を提供**

高度救命救急センターは1967年、国内初の本格的な重症救急専門施設「特殊救急部」として開設されました。2001年には高度救命救急センターに指定され、救急隊員によって現場から搬送されたり、他の医療機関から紹介されたりした重症の患者さんを受け入れる三次救急医療施設として、地域の救急医療の中心的役割を担ってきました。

外科や脳神経外科、整形外科の専門医資格に加え、集中治療専門医や熱傷専門医などの資格を併せ持つ救急科専門医19人が診療に当たっています。また4月からは、一定の医療行為ができる特定看護師の資格を持つ看護師長をはじめ、14人の看護師が配属されました。いずれもEICU(救急集中治療室)での勤務や他の診療科などで経験を積んだ看護師です。

14人には、研修を受けてDMAT(災害派遣医療チーム)隊員資格を持つ者、国際会議など大規模イベントでの外傷発生に備えたTSAT(外傷外科支援チーム)隊員の資格を持つ者の合計5人を含みます。

今回の体制の強化により、複数の重症患者さんが同時搬送された場合も、医師、病院救急救命士とともに十分に対応できるようになります。また、災害が起きて緊急な対応が必要な場合でも、院内の看護師のシフトから独立しているため、比較的早い段階で現場に向かう準備が可能になります。さらに、院内で他の診療科へ通院する患者さんに急変が起こった場合にも、よりスムーズに対応できるようになりました。

近年、新型コロナウイルスなどの感染症拡大や各地で頻発する自然災害などに対応する重症救急医療施設の充実への社会的要請はますます高まっています。

それに応える形で、センターは2024年、EICUを大規模リニューアルしました。20床の病床数はそのままですが、最新の集中治療機器を設置できるよう、全面的に改修して空間を広げました。現在、病床稼働率は常時100%を超えており、比較的症状が軽くなった患者さんを一般病棟に移すなどして対応しています。

センターでは年間約1500人を受け入れ、このうち約1000人が心停止や重症外傷、脳血管障害などの三次救急患者です。命に関わる病気やけがなどが対象であることは変わりませんが、これまでの一連の体制強化により、本院が提供する医療の質や安全性が一層高まることを目指しています。

# 令和８年熊本地震に阪大DMATを派遣

2026年7月28日に発生した熊本地震を受け、大阪大学医学部附属病院は、医師2名、看護師2名、業務調整員2名の計6名で構成するDMATを、8月1日から6日まで熊本県へ派遣しました。

阪大DMATは熊本県の災害医療体制に組み込まれ、各本部の指揮・活動指示に基づいて任務に従事しました。8月2日から4日までは、熊本労災病院内に設置された熊本県南DMAT活動拠点本部の指示の下、同院ER赤エリアの診療を支援しました。3勤務帯で救急搬送35名に対応し、25名が入院となりました。肺血栓塞栓症による心肺停止、急性心筋梗塞、急性大動脈解離、重症熱中症などの重症患者にも、現地スタッフや他県DMATと協働して対応しました。

8月5日には、八代地域保健医療福祉調整現地本部に参集後、八代市支所の指揮下で2班に分かれて活動しました。1班は福祉施設の支援ニーズを分析し、介入の優先度が高い施設を抽出しました。もう1班は訪問看護ステーションと連携し、芦北町の在宅療養患者に対する治療薬の投与再開を支援しました。

今回の活動を通じ、災害対応の段階に応じて変化するニーズを能動的に把握し、現地スタッフの負担軽減と休息確保につながる支援を行うことの重要性を再認識しました。派遣に際し、院内の勤務調整および後方支援にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



熊本労災病院(熊本県八代市)で支援活動を行う、阪大病院から派遣されたDMATのメンバー(奥)＝2026年８月

令和８年度

# 国公私立大学附属病院医療安全セミナーを実施

6月17日に「令和8年度国公私立大学附属病院医療安全セミナー」をハイブリッド形式で開催しました。本セミナーは文部科学省の後援を得て平成16年度から毎年、本院の中央クオリティマネジメント部が中心となって、企画・実施しています。24回目となる今回は23名の講師を迎え、全国の大学病院、厚生労働省、文部科学省、企業等から、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士などの医療技術職、事務職員ら計879名の参加がありました。

今回のプログラムでは、大学病院をとりまく環境が変化する中で、高度で質の高い医療を安全に提供し続けるために必要な事柄について、多面的に学びました。具体的には、人間の特性を踏まえたヒューマンファクターズと呼ばれる安全対策の考え方、ノンテクニカルスキル教育の実際、組織内や地域へ広がる医療安全支援ネットワーク、人とAIが相互に関わることで実現する医療安全など、幅広い領域からの講演がありました。

参加者からは「心理的安全性などチーム力を最大限に発揮するためのヒントを得られた」「組織全体の学習へつなぐ意識と体制づくりの重要性を認識できた」「医療AIを活用するために必要な組織ガバナンスについて理解できた」等の意見が多数寄せられ、好評のうちに終了しました。


手術チームのノンテクニカルスキルについて講演する関西医科大学の山﨑誠先生


## 患者支援アプリ「wellcne」(ウェルコネ)で外来受診が便利で快適に



**登録方法が簡単になりました**

アプリをダウンロードして診察券登録を行うと、診察受付や診察待順案内、アプリ決済(後払い)、処方箋送信などの機能をすぐにご利用いただけます。診察の順番が近づくまで待合室を離れて自由に過ごすことができ、クレジットカードを登録いただくと、アプリ決済(後払い)で会計待ちの負担も軽減されます。ぜひ診察の待ち時間を利用して、アプリをダウンロードしてください。

**全ての機能が使えるよう、本人確認をお願いします**

患者さんの大切な診療情報を安全にお守りするため、一部機能のご利用にはマイナンバーカードや運転免許証などによる本人確認をお願いしています。

本人確認を行うと、お薬や血液検査結果など、これまでの診療情報をご自身のスマートフォンで確認できるようになります。また、診察予約変更リクエスト、予約前日のお知らせ通知、遠隔チェックイン(仮受付)など、「wellcne」のすべての機能をご利用いただけます。

ご自身の健康管理や受診をよりスムーズに行うために、ぜひ本人確認を行ってください。

▼ウェルコネアプリのインストールはこちらから



## 病院再開発基金へのご寄附のお願い

「統合診療棟」開院から1年を迎えました。皆さまからの多大なるご支援により、高度な診療機能の充実、災害拠点病院としての役割を強化することができました。心より御礼申し上げます。現在、再開発事業の第2弾として、外来棟跡地に「新病棟」を建設する計画を進めております。現病棟は竣工から30年以上が経過し、近年の医療ニーズに十分に対応することが難しくなっています。「新病棟」の建設を通じて、患者さんが安心・安全かつ快適に療養できる環境を提供することを目指しております。本再開発のコンセプトは、“Futurability — 待ち遠しくなる未来へ。”です。新たな病棟の建設に向け、今後も大阪大学医学部附属病院の再開発事業に、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▼詳しくはこちらをご覧ください

大阪大学未来基金


新

## 診療科長等ごあいさつ



なかもり　まさゆき
**中森 雅之**
●脳神経内科長

このたび、脳神経内科長を拝命いたしました。脳神経内科では、脳卒中、パーキンソン病、神経免疫疾患、神経筋疾患、認知症など幅広い病気を診療しています。一人ひとりの患者さんに寄り添い、安心して質の高い医療を受けていただけるよう、日々の診療の充実に努めてまいります。また最先端の診断・治療と研究を一体的に進め、新たな治療法の開発にも積極的にも取り組んでまいります。

(令和8年9月1日就任)


阪大病院 NEWS
No.104号
THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL
2026(令和8)年10月25日発行
発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
住所／〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15
TEL／06-6879-5111(代表)
QRコードから本院ホームページをご覧いただけます
https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

## マスク着用ルールについて

- 院内感染対策のため、**市中の感染症流行状況に併せてルールが変わります。**最新の情報は、本院ホームページまたは院内掲示をご確認ください。
- **個別の状況**によって、医師の指示でマスク着用をお願いする場合があります。
- **せき、くしゃみ、鼻水等の症状がある方**は、「マスクを着用する」「ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う(袖、上着の内側もOK)」などの**“咳エチケット”**で感染予防をお願いします。


大阪大学「ワニ博士」

# 難治性うつ病に新治療機器導入
## 「rTMS療法」薬物治療以外の選択肢

**神経科・精神科**

神経科・精神科では、認知症、気分障害、不安障害、統合失調症、てんかん、ストレス性障害、摂食障害、睡眠障害、リエゾン、青年期の危機など、精神神経疾患全般に対応しています。また、高度医療機関として、専門的な検査を必要とする患者さんの診断・精査を行うとともに、一般的な治療では十分な効果が得られない患者さんに対して、専門的な治療を提供しています。その一環として、難治性うつ病に対する新しい治療機器「Brainsway TMSシステム」を導入しました。

rTMS(反復経頭蓋磁気刺激)療法は、磁気の作用を利用して頭皮上から脳を刺激する治療法です。Brainsway TMSシステムは、2024年7月に保険収載された新しい治療機器であり、本院は2026年2月に大学附属病院として国内で初めて導入しました。ヘルメット型のコイルを用いて左前頭部を刺激し、1回約20分間の治療を週5回、およそ4週間行います。薬物療法にrTMS療法を併用することで、3~4割程度の患者さんでうつ症状が半分以下に改善し、1~3割程度の患者さんでは症状がほぼ消失する(寛解する)ことが報告されています。



rTMS療法の主な対象患者さんは次のとおりです。

■18歳以上で、中等症以上のうつ病と診断されている方
■1種類以上の抗うつ薬を、十分な量・期間使用しても十分な改善が得られない方
■抗うつ薬の副作用などにより、十分な薬物療法を続けることが難しい方

一方、重症で速やかな治療が必要な場合や、金属製の植込み型医療機器を使用されている方など、一部の患者さんでは治療を受けられない場合があります。

rTMS療法に関する診察は、金曜日午前の【うつ病rTMS療法】専門外来で行っています。

この療法は、薬物療法だけでは十分な改善が得られない患者さんにとって、新たな治療選択肢となることが期待されています。神経科・精神科では、この最新の治療機器を活用し、患者さん一人ひとりに適したうつ病治療を提供できるよう、診療のさらなる充実に取り組んでまいります。

# 安全・安心な外来治療を提供
## 薬剤の合併症を慎重管理

**化学療法部**

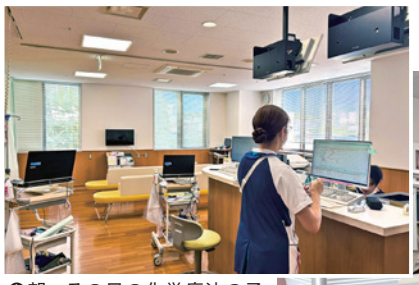
この20年における抗がん剤や治療法の進歩は目覚ましく、最近では治療を続けながらも可能な限り日常生活を維持し、生活の質(QOL)を保つことが非常に重要視されています。本院の化学療法部は、年間約15000名の患者さんにご利用いただいており、安全かつ安心して外来通院で治療を受けていただけるよう、スタッフ一同努めております。

現在、当部で治療を受ける患者さんは免疫チェックポイント阻害薬をお使いの方が最も多く、さらに抗体療法、抗体薬物複合体、二重特異性抗体などこれまでの抗がん剤治療と違い、副作用の少ない薬剤も続々と標準治療として導入されています。一方でこれらの薬剤に特徴的な合併症がおこることもあり、安全に治療を受けていただけるように慎重に治療を進めております。

また本院では多くの新薬治験も受け入れており、次世代の標準治療を確立すべく、各診療科と連携しながらスタッフの知識・技能の向上を図り、高度な治療を提供しています。

一方で、各種ガイドラインの整備により治療方針が確立された現在においても、患者さん一人ひとりの副作用・合併症への対応、日常生活上の困りごとや経済的な不安など、抱える悩みは様々です。当部ではそれらの課題に対応するため「がん相談支援センター」を併設し、専門スタッフが手厚くサポートできる体制を整えています。

今後は標準治療の実践にとどまらず、がんゲノム医療の普及や新規治療の導入を通じ、患者さん個々の病態に合わせた精密な治療(個別化医療)がより重要になると考えております。今後とも関係各部署と密に連携し、「大阪大学医学部附属病院で治療を受けてよかった」と実感していただけるよう、最適な治療をご提案してまいります。







上 朝、その日の化学療法の予定を把握し、適切な病床配置の準備を行う看護師
下 薬剤部で調整された治療薬を患者さんに届けるため、入念な確認作業を行う看護師

**第22回市民公開フォーラムを開催します**

「知っておきたい『若い世代のがん』
── 今できる予防・治療と未来への選択」

●日　時：2027年1月30日(土) 13:00~15:00
●開催方法：会場参加・ライブ配信
●場　所：大阪大学最先端医療イノベーションセンター1F マルチメディアホール (大阪府吹田市)

詳細はこちらからご確認ください▶

# ホスピタル ミニ・ニュース
PHOTO TOPICS

## ゴールドセプテンバー

9月11日(金)実施



大阪大学アメリカンフットボール部TRIDENTSのみなさんが、試合で飾るランタンを子どもたちと一緒に作るために来てくださいました。それぞれが和紙に好きな言葉や絵を描いたりシールを貼ったりして、とても素敵な作品が完成しました。試合の日にこれらのランタンに点す灯はみんなへのエールとなります。





9月18日(金)実施

**小児医療センター**

## 秋の運動会

小児医療センターの院内学級では 通常の授業はもちろん、季節に応じた様々な行事が開催されます。9月18日には秋の運動会が行われました。ビブスを着用して参加する子どもたちは笑顔の中にも真剣な眼差し。あっという間の時間でしたが、とても充実したひと時となりました。







## 阪大病院がんサロンを開催します



2026年12月15日、「がん治療中の体力づくり」をテーマにした講演会を開催します。

前回は、その場でできる簡単な体操なども参加者の皆さんと一緒に行いました。がんリハビリテーションチームのプロフェッショナルによる講演会は5年ぶりの開催となります。毎回ご好評をいただいている講演です。たくさんの方の参加をお待ちしています。

**詳細は11月頃に病院ホームページ等にてお知らせします。**



## 一緒に、阪大病院を支えませんか

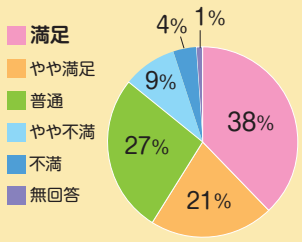
本院では多様な職種で人材を募集しています。募集内容・応募方法等は、下記のURLもしくは二次元コード先の「職員採用等のお知らせ」をご覧ください。

https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/recruit/

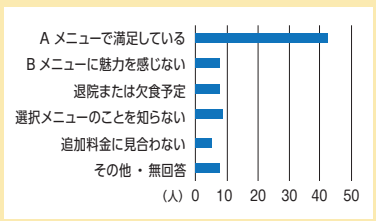


## 病院食アンケート 結果報告

**病院食の満足度**




**選択食を選ばない理由**




入院患者さんを対象に病院食アンケートを実施しました。病院食の満足度について、「満足」、「やや満足」または「普通」と回答された方が全体の86%を占めました。また、「選択食を選んだことがある、または選ぶ予定がありますか？」という質問では、39%の方が「はい」と回答され、「バリエーションが豊富」「好きなメニューが多い」等のご感想をいただきました。「いいえ」と答えた方に、選択食を選ばない理由をお伺いしたところ、「Aメニューで満足している」という回答が多くみられたものの、「知らなかった」「魅力を感じない」等のご意見もいただきました。今回のご意見を参考に、今後も満足度の高い病院食を目指し取り組んでまいります。





坂田病院長

## おすすめ 中華御膳

8月25日に坂田病院長の夏のおすすめ御膳を実施しました。今回は、坂田病院長からリクエストのあった中華料理を入院患者さんにお届けしました。黒酢を使用した酢豚や、山椒の風味を効かせた麻婆豆腐、練り胡麻とすり胡麻を合わせた特製タレのバンバンジー風サラダなど本格的な味に仕上げました。小児食には夏をイメージして金魚や花火で飾り付けした鮮やかなマンゴープリンを手作りでご用意しました。患者さんからは「全ての料理が主役という感じで、全部おいしかったです」「こういうのが出るとテンション上がります」「マンゴープリンが特別感があって嬉しかった」などと沢山の嬉しいご感想をいただきました。



小児食デザート マンゴープリン